
夢現

鹿野島 なほ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢現

【Zマーク】

Z3781W

【作者名】

鹿野島 なほ

【あらすじ】

黒髪の地味で「よく普通な女の子、なほがひとりの不良に絡まれ新たな出会いが!そして色々な経験を積んでゆく。しかしそれ、実は

.....

1 (前書き)

これはやつと前から書きたかったお話しですね。

0時56分

また今日が始まった。
進めてもない時間が進み
今日が終わり明日に変わる

「寝る…か…。」

わたしは読みかけの小説に押し花のついたしおりをはさみ、電気スタンドを消灯した。

ジリリリリリ

あつという間に田覚ましが鳴った。しぶしぶ田覚まし時計を止める。制服に腕を通し、真っ黒で長くつややかな黒髪をていねいにとかす。

階段を降りると、過保護すぎる母が朝食を作つて待つている。

「なほちゃん！今日は早いのね。えらいわね早起きなんて…」

わたしの母親は10年前に父親と離婚。

それからシン글マザーとして、一人っ子のわたしを育ててきた。
まあそんな母親はすごいとは思うけど離婚した理由は知りたいとは思わない。

だって今聞いたって別に意味がないし、母も正直にすべては話さないと思う。

そして母は常に笑ってる。

話すときも、寝るときも、料理作るときも表情を変えたりしない。

なんでだろ？。

わたしははずつと隠っていた。

なにかを隠している、内面に詰め込んでいる…

そんな顔にしか見えない。

疑問に思うけど聞くことは出来なかつた。

こんな過保護で弱々しい性格な母親の子供が、『気強くなんでも言える』ような強い勇者になるわけがない。

わたしは朝食もそこそこ元気を出た。

静かな朝だつた。

小鳥たちが口笛を吹き、

人々は朝の清い時間を有意義に過ごしてゐることだろ？。

ゴミを出しにきている近所のおばさんも、深い深呼吸をしてくる。太陽光がまぶしかつた。

でもじりじり暑い光ではない。

ふんわりと暖かい日差しが朝のひんやり冷たい空気とけりマジチしていい気持ちだつた。

わたしは深呼吸をした。

…と思つた瞬間

背後から爆音が聞こえてきた。

なんなのよ、朝つぱらから！

ボンボン！

爆音は背後に迫つてくる。
でも振り向かなかつた。

振り向いたつてへんな不良に絡まれるだけ！

キキーツ

振り向かなくとも絡まる…。

わたしの真横に1台のバイクが止まつた。

わたしは真横を向いた。

「…おはよッ…ス…」

そこには…え！？男！

茶髪にピアス、シャツのボタン3こ開けにパンツ見えそうなズボン！最後のしめくくりに眉毛なし！なんなのこの不良は――！

「…だ、だれ…？」

男はバイクのエンジンを止め、降りた。

わたしは恐る恐る聞いた。無駄に絡むと危険だからね！すると男は、にこつと笑いながらわたしの目を見つめた。

意外に綺麗な目…してる。たれ目に二重。

「木崎翔。」

木崎…翔…いい名前してんじやん…。

はつ

だめだめ！なにわたし考えてんの！？自分のばか。

「なんの用。」

わたしは冷たく言つてみた。

木崎翔つてやつはキヨトンとした顔でわたしを見て笑つた。

「あつはは、相手に名前を聞いたら、自分も言つのが当たり前だろ

つ？」

え！？

なんなのコイツ！意味わかんない！わたしも名前言えつての！？嫌！こんな変なやつに名前言うなんてただの損、損！？

わたしは首を横にかすかに振つた。すると木崎翔つてやつは優しい瞳でにこつと笑つた。

… そつさりげなく笑うのがたまんないわ…

卷之三

で送るよ。」

は
?

なに言つてんのこの人！

達を一札だけ見て知りての不思の力の小口裏を
秀ひて見らつ

その感情が顔に出

木崎翔が少し困った顔をした。

「…」めんね、
俺なんかが急に話しかけちゃって…」

わざわざの湯かの逃げな物や。わたくしは前をむかへ、歩き始めた。

静かに、静かに、ね。

۱۷۰

もうこんなしつこい俺きもい！

… それともわたしが性格悪過ぎなの？ わかんないけど、

…急は」めん「と俺いまは」気分悪く」だ。

卷之三

۸۰۸. ۲۵۱ - ۱۳۱۰: ۲۶

こんな不良なのに、

どこか優しくて綺麗な一面もありそうで…

わたしは、二、三歩もきなかなず、と黙ってました。

תְּלִימָדָה בְּבִנְיָמִינָה

わかる」としたなら謙るよ。

低くて爽やかな声。

耳につくような声……。

「俺……行くよ。」

……気になる。

わたしはしばらく迷い続けた。

どうするべき場合なのか？

ただ前に歩くばかりで木崎翔にはなにも言わなかつた。

その間、木崎翔はうつむいたままバイクに乗る準備をしていた。

木崎翔とは何者なのか？

なんでわざわざわたしに話しかけたの……？

どうしてこんなに迷わせるようなことするの？

とつとうHンジンがついた。

ブォン

気になる存在だった。このまま木崎翔の消えてゆく後ろ姿を見てい
るだけでいいのか？

それとも”待つて”つて……

でもこんな仲のいい近所のおばさん達がいる住宅街の中
こんな不良と絡んでるお嬢ちゃんがいた、なんて噂が広まつたら……

わたしだけで済む問題じゃない！

でも、でも…！

木崎翔はバイクにまたがった。

そしてわたしに向かつてささやいた。

「それじゃ、またね。」

ブォン！

行っちゃう、行っちゃうー！

木崎…翔…。

突然背後から現れた謎の不良…
またね、だつて…へへつ。
あ、行っちゃう。

「鹿野島なほ！」

わたしは声を張り上げた。
エンジン音と距離的に普通の声の大きさじゃ足りないから。
初めてこんな大声…出した。

この裏返った大声に、さすがに木崎翔も気づいた。

そしてあの綺麗で優しい
「それを待つてた。」
笑顔を見せてくれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3781w/>

夢現

2011年10月9日16時02分発行